



● 城東地区 ●
 1901 世帯
 男 1744 人
 女 1849 人
 合計 3593 人
 R3.3.1 現在

人口減少に伴う役員選出の難しさ 和泉町2丁目町内役員会

和泉町2丁目町会では1月18日に東部地区公民館にて役員会を開き、来年度の役員選考について議論をしました。出席者は増田町会長をはじめ、副会長2名、会計、民生委員および本年度の各組長です。

当日の松本市は長野県新型コロナウイルス感染レベルが5ということ、マスクの着用、会議室の換気、ソーシャルディスタンスを確保した席の配置等、感染防止対策を講じた上での開催となりました。

和泉町2丁目町会には現在公民館がないため町内の定期総会等、町会に関する会合は、東部公民館にて行っています。もともと公民館はあったのですが、世帯数の減少に伴い、維持・管理が難しくなり閉館せざるをえなくなりまし。その後世帯数の減少は止まらず、アパートや事業所



を除く世帯数は現在では30世帯程度にまで減っています。一方で役職は20以上あり、仕事や年齢等で役職を担うのが難しい世帯を除くと、世帯数よりも役職の方が多いのが実態です。そのため、比較的負荷の小さい役職の兼務や、

1所帯で複数の役職者を出すなどして、どうにか対応しているのが現状です。来年度は基本、今年の役員が引き続き継続する予定ですが、町会長より高齢のために継続が難しい方や、長期にわたり同じ役員をやっている方がいるため役員の交代が必要との説明を受け、後任をどうするか検討をしました。

後任をしていただけそうな人の名前をあげながら、議論・検討を重ねましたが、現在の役員を除くと、役員候補となりそうな人は非常に限られることを実感しました。結局、

方については無理をいって来年度も継続していただき、他の役員については一旦後任の候補を決め、来年度の役員をお願いすることにしました。来年度はなんとか調整の目途がつかまりましたが、高齢化や世帯減が進む中、今までのような役員選出では近い将来役員の出出ができないことは自明です。町会長からまだ正式ではな

いものの、役員数の削減の提案がありました。すでに削減した町会もあり、それを参考に検討ができそうです。また、役員も2年ごとの持ち回りで、均等に役員の仕事の負担をするようにしているところもあるそうです。ただ、それが正解かというものはなく、それぞれの町内の実情に合わせて検討していく必要があります。また、城東地区以上に高齢化や人口減少が進んでいる地区もあり、他の地区の取り組みも参考になるかもしれません。(浅田)

北上横田町の「今」
 ～いきいき百歳体操～

北上横田町会は、城東2丁目的一部、女鳥羽2丁目的一部、旭1丁目の一部にまたがる、加入戸数約65戸の小さな町会です。1935年頃の北上横田町の住戸図を見ますと、130戸程の名前が書かれていましたので、半分程に減ってしまったようです。戦前の住戸図ですので、今は家がなくなってしまうと思われる所にも大勢の方が住まわっていたようですので、とても賑やかな地区だったのでないかと想像できます。しか



3月3日に行われたいきいき百歳体操の様子

し現在は、住まわれている方も少なく、高齢化も進んでいるせいで、街並みも少し寂しくなってしまったように感じます。

昨年からは新型コロナウイルス感染の第一波、第二波、第三波が次々と起こり、長野県下で1月8日に新型コロナウイルス特別警報2が発出され、松本市も感染警報レベルも5に引き上げられました。幸い、2月16日に長野県全域感染レベルが1まで引き下げられました。2月末頃までは「感染警戒期」となっています。1年以上新型コロナウイルスに翻弄され、不要不急の外出の自粛やマスクの着用が当たり前になり、アルコール消毒や3密回避が要請され、公民

(裏面へ続く)

館活動も制限されてきました。直接的な公民館活動ではないのですが、北上横田町会では公民館を使っていきいき百歳体操を水曜日の10時から行ってきました。松本市健康づくり課のご指導を受け、1年半ほど続けていますが、本年1月8日の特別警報が発出されてからはお休みになっていきます。参加されている方は皆さん65歳以上の高齢者の方で、最高齢で96歳の方もいらっしゃり、新型コロナウイルスの重症化リスクが高い方がほとんどです。参加される方は多い時で15名ほどですが、平均すると10名ほどの参加者になっています。感染拡大前は全員10時に集まり、DVDを見ながら画面に合わせて無理のないように、椅子から立ったり座ったりして40分ほど体を動かします。

感染拡大の第一波の頃から、人数を半分に分け、10時からと11時からの2つのグループに分けて、いきいき百歳体操を続けてきました。始まった当初はいつまで続くのかと思ったりもしましたが、参加する人もそれほど減らず、継続されてきました。参加されている方は、体操だけではなく、集まる人と話をしたり、顔を見ることが良いとお話されています。町会長さんもなかなか集まる機会がなかったのですが、このいきいき百歳体操で集まる機会ができて良かったという様にも話されていますので、いきいき百歳体操を継続することが、健康の意地増進とコミュニケーションをとる機会にもなるのだと思われました。感染状況も次第に快方へ向かっていることで、近いうちに再開されることと思います。



簡単そうに見えて、やってみると意外とキツイ…!

新型コロナウイルスが生活を一変させました。特に、人と人との繋がりを阻害しているように思われます。新型コロナウイルスにより、以前の生活がどれほど恵まれていたのかを考えさせられますが、マスクなしで気兼ねなく以前のような会話ができて、県外へも気軽に出かけることができ、生活に早く戻れることを祈願しています。(川上)

未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い

令和3年2月21日(日)に、「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い(第36回公民館研究集会)」が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当初は密を避けるため4会場に分散しての開催となる予定でしたが、松本圏域の感染症警戒レベルが5に引き上げられたことを受けて、基調講演会のみのオンライン開催となり、分科会等は延期または中止となりました。今回の催しは、自分と異なった立場の方々や意見を交わすことができるまたとない機会であり、このように規模を大幅に縮小しての開催となりましたことは残念でなりません。

YouTube配信の様子

意識を持つていることを、市民・行政・専門家など立場の垣根を越えて自由に語り合うことができるイベントです。構成は大きく二部制になっており、前半は基調講演会、後半は市民や行政から投げかけられたテーマに沿って自由に語り合う分科会となっています。

今年度の基調講演は、長野県生涯学習センター所長の木下巨二氏による「コロナ禍で考える公民館の役割」についてでした(当日の様子はYouTubeの松本市公式チャンネルにて視聴ができましたので、ぜひご覧ください)。講演の中で私が特に印象深かったのは、「等話」という話し方についてです。コミュニケーションの場における等話とは、

まちづくりの集い
当日の様子はこちら
(YouTube
松本市公式チャンネル)

- ①自分の話はできるだけ短めにする
 - ②相手の意見を否定しないこと
 - ③自分の発言は質問で終わらせること
- の三つを意識した対話のことだそう。公民館や社会教育は、この「等話」「会話」「コミュニケーション」の力をつける場であるとお話がありました。日頃の会話ではつい自分の話ばかりしてしまいがちですが、会話する相手に興味を持ち尊重することで、より円滑なコミュニケーションが育めるのだと再認識しました。
- 今年度は、開催に向け準備を進めてきた分科会が延期という形になり、大変残念でした。1日も早く以前のような平穏な生活を取り戻し、三密やソーシャルディスタンスを気にすることなく大会を開催できるようになることを強く願っています。